


駒ヶ根市文化財

名称	高鳥谷神社矢納の神事	
種別	民俗・芸能	
指定	市・無形民俗文化財(平成 23. 12. 27)	
所在地	東伊那火山 高鳥谷神社	
説明	<p>高鳥谷山山麓にある高鳥谷神社は、東伊那五耕地(火山・塩田・大久保・栗林・伊那耕地)の大産土神(うぶすながみ)として尊崇されてきた神社で、その祭礼には往昔より矢納の神事と呼ばれる大的(おおまと)式の祭事を奉納してきた。</p>  <p>神事の始まりは、正徳 2 年(1712)御坂山(みさかやま)大明神を祀ったときに遡る。後、文久年間高遠藩士岡野宗八郎忠雍の弓弟子である塩田村の馬場宇源治忠利が、諏訪下社の御射山大的式にならって復興したと伝えられている。弓の流派は日置流雪荷派(へきりゆうせつかは)で、馬場家が代々弓の師匠を勤めてきた。初めは御射山の大的式にならって三十三間通し矢であったが、現在は十五間(27 m余)になっている。</p> <p>神事の概要は次のようである。奉仕する弓子は五耕地より、長男もしくは家を継ぐ者を年長順に原則 10 名を選ぶ。一生に一回だけ弓子になれる。装束は弓子が浅黄(あさぎ)、正副区長が黄色の麻袴(かみしも)を着ける。神殿における祭式の中ほどで、宮司は神鏡とひもろぎを奉持して、これを矢場に安置する。的に対し、弓を射る位置に前列弓子、後列に正副区長と自治組合長が二列に並び、宮司、師匠兩名も位置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)一同着座。 (2)宮司、祭壇に向かい祝詞(のりと)を奏上。 (3)弓子、順次立ち弓矢を手挟み、一人一人みたましろを拝する。 (4)宮司、大的に対ひ射の儀を行う。 (5)弓子一人ずつ座席より大的に向かい弓を射る。二射を一立(ひとたて)といい、五立を射る。 (6)宮司の引き終わりの二射をもって奉射を終わる。 <p>弓子が次々に弓矢を納め、神饌に拝礼をして矢場での神事が終わる。</p> <p>神鏡とひもろぎを奉持した宮司を先頭に拝殿に入り、玉串奉奠撤饌等を行ない神事の全てが終わる。厳粛な格式高い神事である。</p>	